

算 数 通 信

テーマ：簡単にできる教材研究

第51号算数通信で、加固希支男「なぜ算数の授業で子どもが笑うのか」(東洋館出版社)から、いくつか実践を紹介しました。この中で、「第5章 教材研究について」から、一つ紹介します。「デジカメ1つ用意して・・・」です。町内の先生方の中にも、同じことをされている先生がおられます。

第5章 教材研究について

□ デジカメ1つ用意して・・・

誰でも授業力を上げたいと思います。

実は**毎日一人ですぐにできることで、授業力を上げる方法**があります。それは、**板書の写真を撮ること**です。

確かに、板書の写真を撮って、あとで見直して授業を振り返ることができると思いますが、「見直さないといけない」と思うと疲れてしまいます。なので、最初は気にせず、**毎日撮り続けましょう**。すると、いつの間にか授業力が上がっていくことに気付くはずですよ。

板書を撮りためることがどうして授業力向上につながるかについては、次のようなことが書かれています。要約しています。

それは、毎日写真を残すことから、「**どうやって板書を書こうか**」と自然に考えるようになる。「**何を残し、何を残さないのか**」「**授業のポイントとなる課題や子どもの考えを、あとで見てもわかりやすく残そう**」などを考えるようになるからだ。「**板書に授業の重点を残そう**」という意識をもつだけで、子どもとのやり取りの中で、**瞬時に考える習慣**がついていく。

授業後の板書の写真を撮り続けることは、授業改善への一筋の光明といえるかも。以下、その写真をどう扱いのかが書いてあります。

さて、板書の写真を撮りためていくだけでもいいのですが、せっかく撮った写真をSDカードの中に入れっぱなしにではもったいない。やはり、人に見てもらうからこそ、緊張感も生まれ、力もついていくものです。そこで、私は学級通信に板書の写真を載せるようにしています。とはいえ、毎日載せる必要はありません。「**今日の授業を価値つけて、今後の授業にいかしていきたい**」と感じた授業があったときに載せます。

1か月に1度、書くだけでいいです。**1か月には1回くらいは授業のことを書くのがよい**と思います。保護者にも、どんな授業をしているのかを伝えることは、教師としての役目の1つだと考えています。